

消費者動向調査（令和元年7月調査）

食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 食生活に関する意識調査（特別設問）

調査要領

調査時期	令和元年7月
調査方法	インターネット調査 全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人） ※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業
情報企画部 TEL 03-3270-5585

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ（<http://www.jfc.go.jp/>）に掲載しています。
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業 調査結果」→「消費者動向等調査」の順でご覧ください。

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

令和元年11月



日本政策金融公庫

農林水産事業

1 食に関する志向

食の志向 高齢世代は健康面、若者世代は経済性を重視

図1 現在の食の志向(上位)の推移(2つまで回答)

現在の食の志向は、2半期連続で伸長していた「健康志向」(43.8%、前回比▲2.8ポイント)が低下に転じ、「経済性志向」(38.1%、同+1.2ポイント)と「簡便化志向」(33.4%、同+2.2ポイント)が続伸。

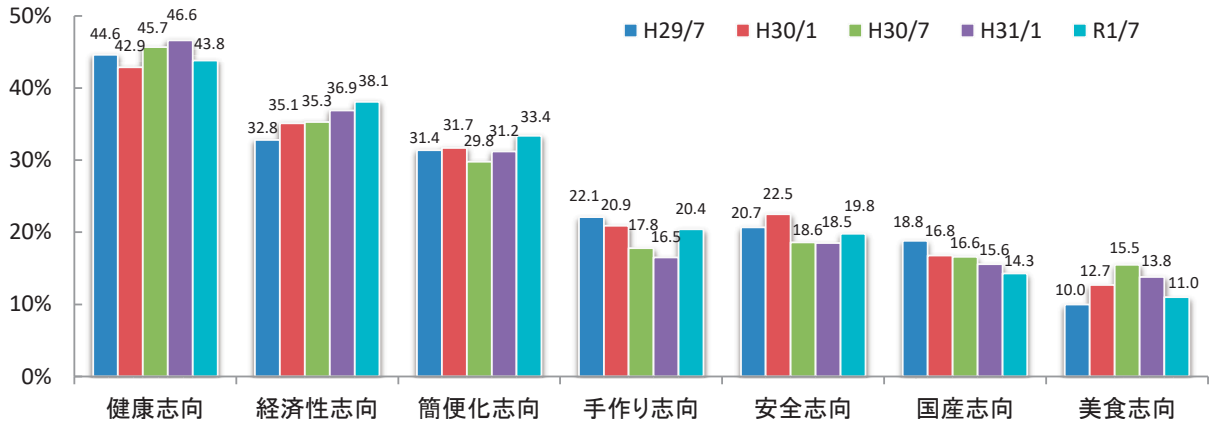


図2 3大志向の推移

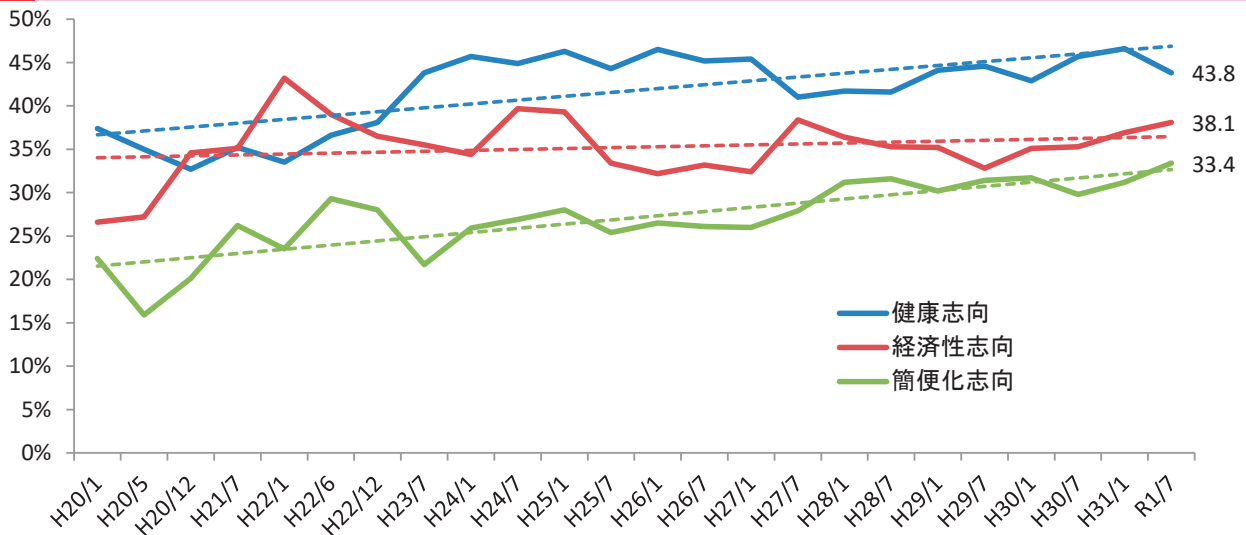
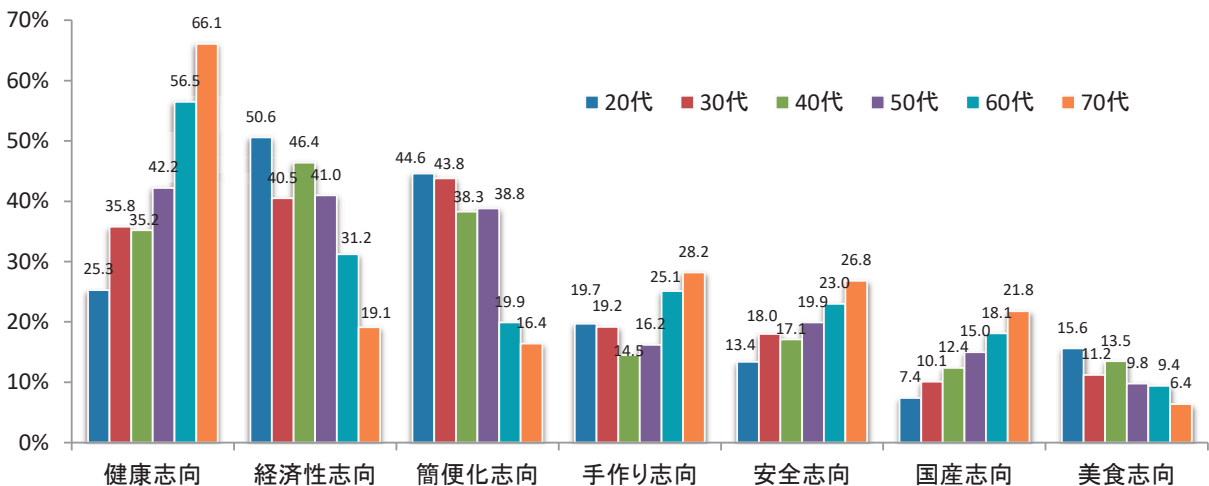


図3 年代別 現在の食の志向(上位)(2つまで回答)/令和元年7月調査

「健康志向」「安全志向」「国産志向」は年代が高くなるほど多くなる傾向。

一方で、「経済性志向」「簡便化志向」「美食志向」は年代が高くなるほど少なくなる傾向。



2 国産品かどうかを気にかけるか

外食時に「気にかける」割合は低下傾向、輸入食品のマイナスイメージは薄れる傾向

図4 食料品を購入するとき/外食するときに国産品かどうかを気にかけるか

食料品購入時に国産品かどうか「気にかける」割合は73.2%となり、直近3半期は横ばいで推移。また、外食時に「気にかける」と回答した割合は30.0%となり、緩やかな低下傾向。

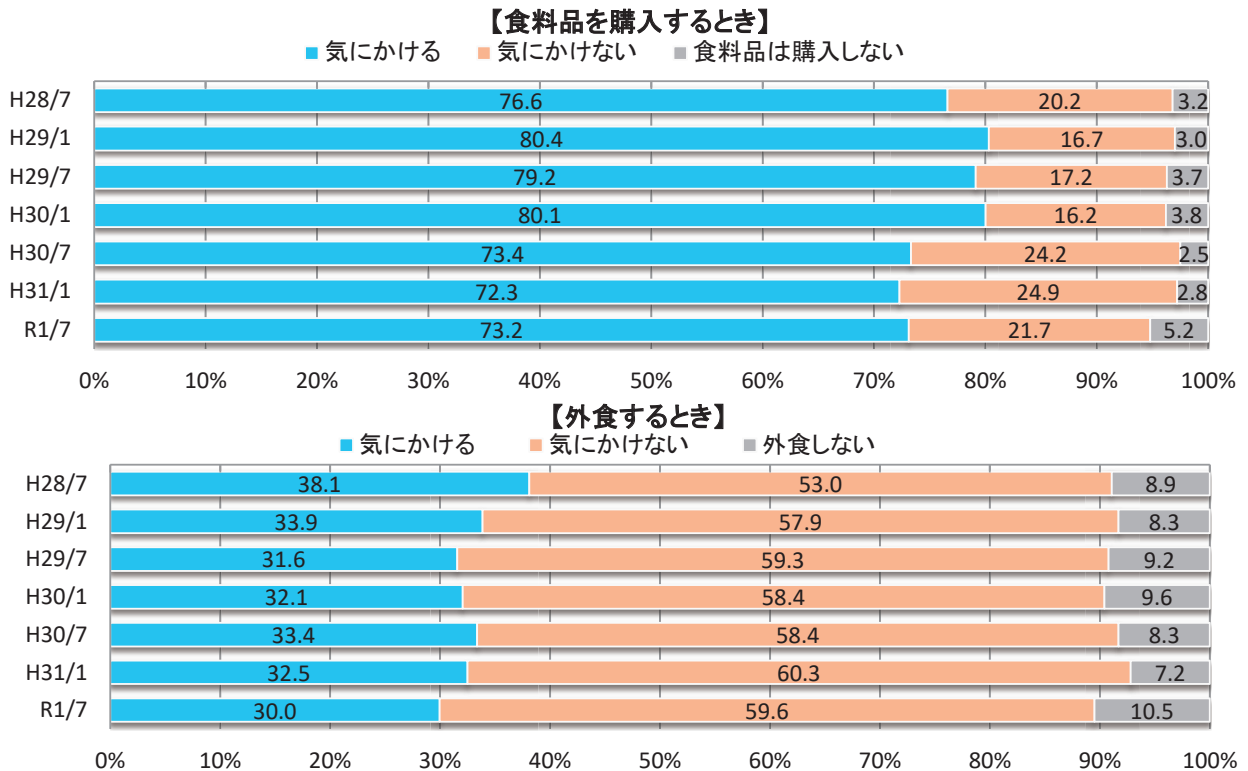
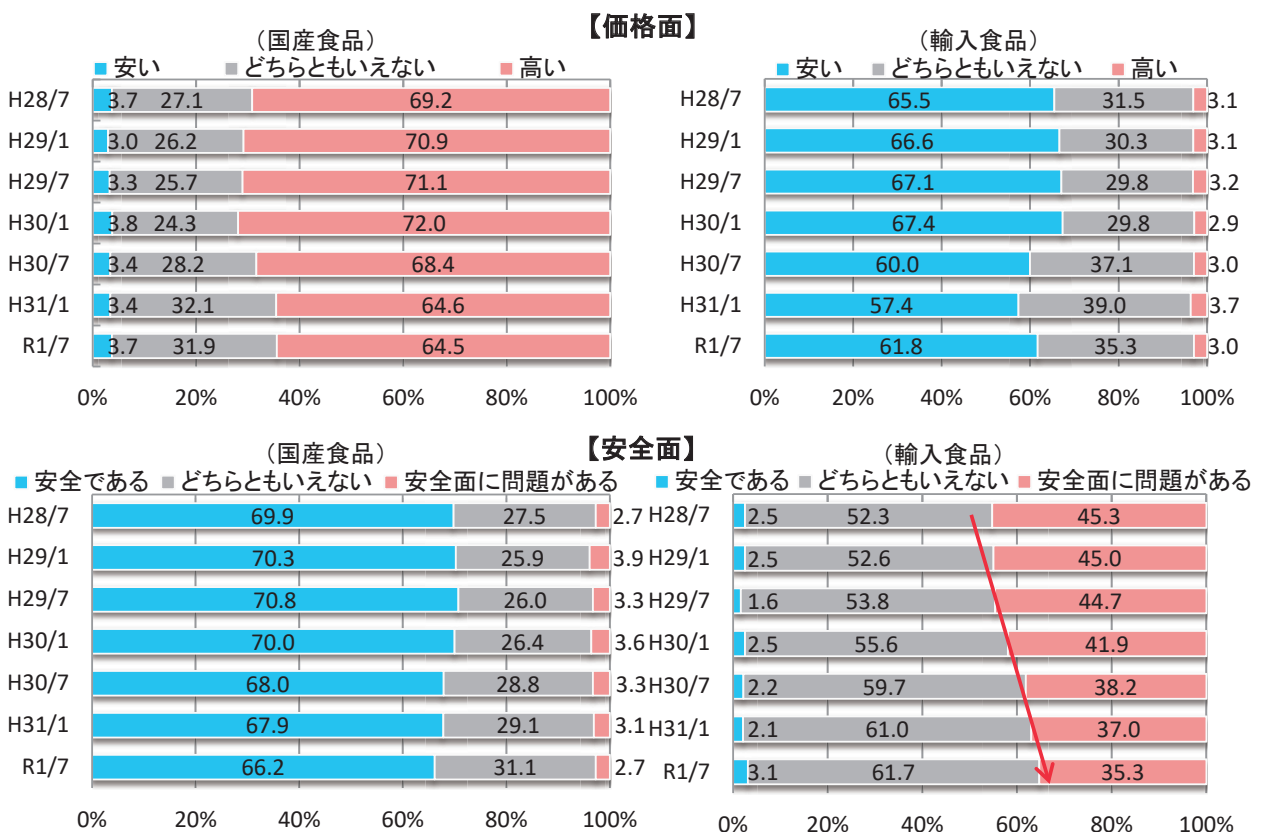
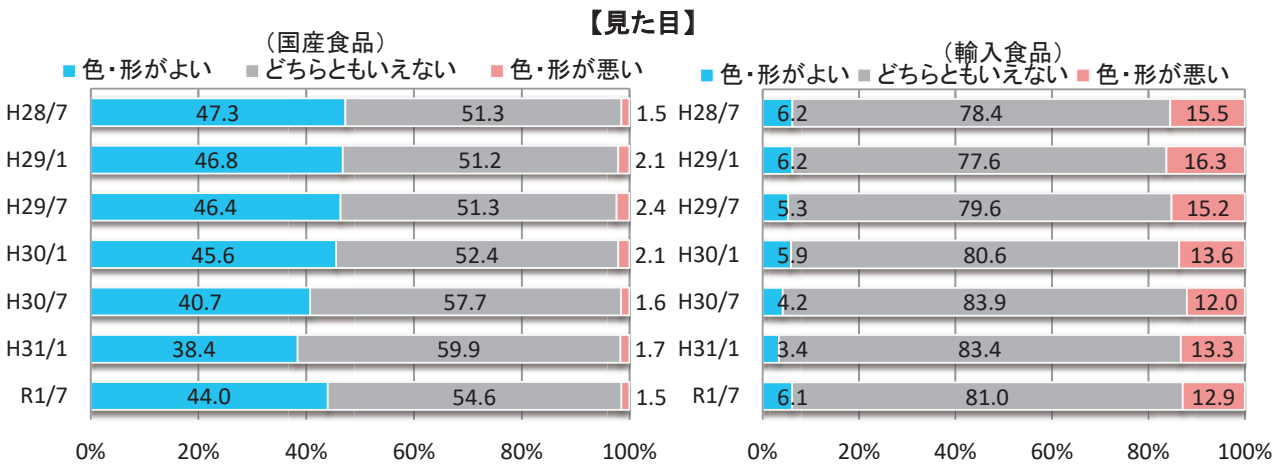
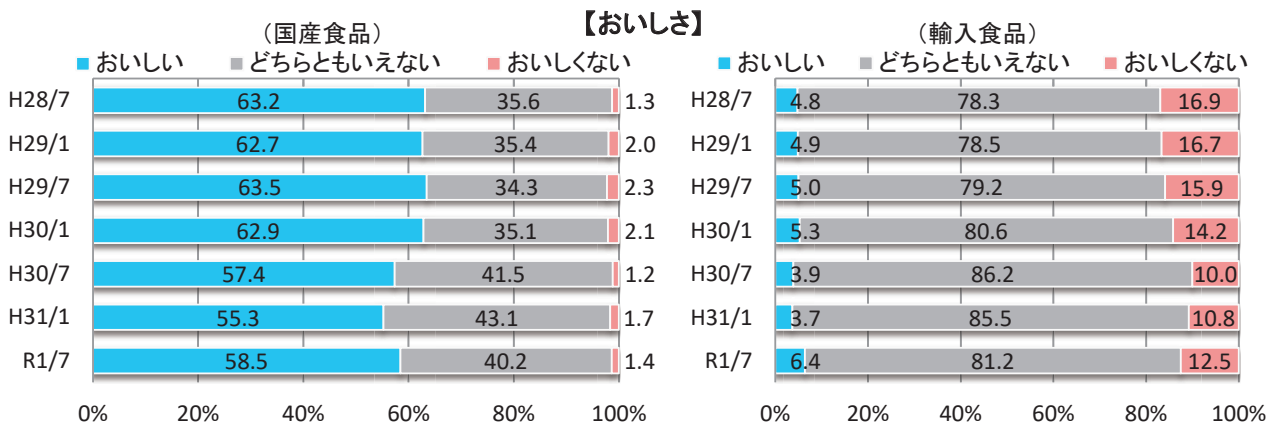


図5 国産食品に対するイメージ(価格、安全、おいしさ、見た目)

国産食品は「価格が高い」は前回調査と同水準ながらも平成20年の調査開始以降で最も低い値。また、輸入食品は「安全面に問題がある(35.3%)」というマイナスイメージは低下し、こちらも平成20年の調査開始以降で最も低い値。



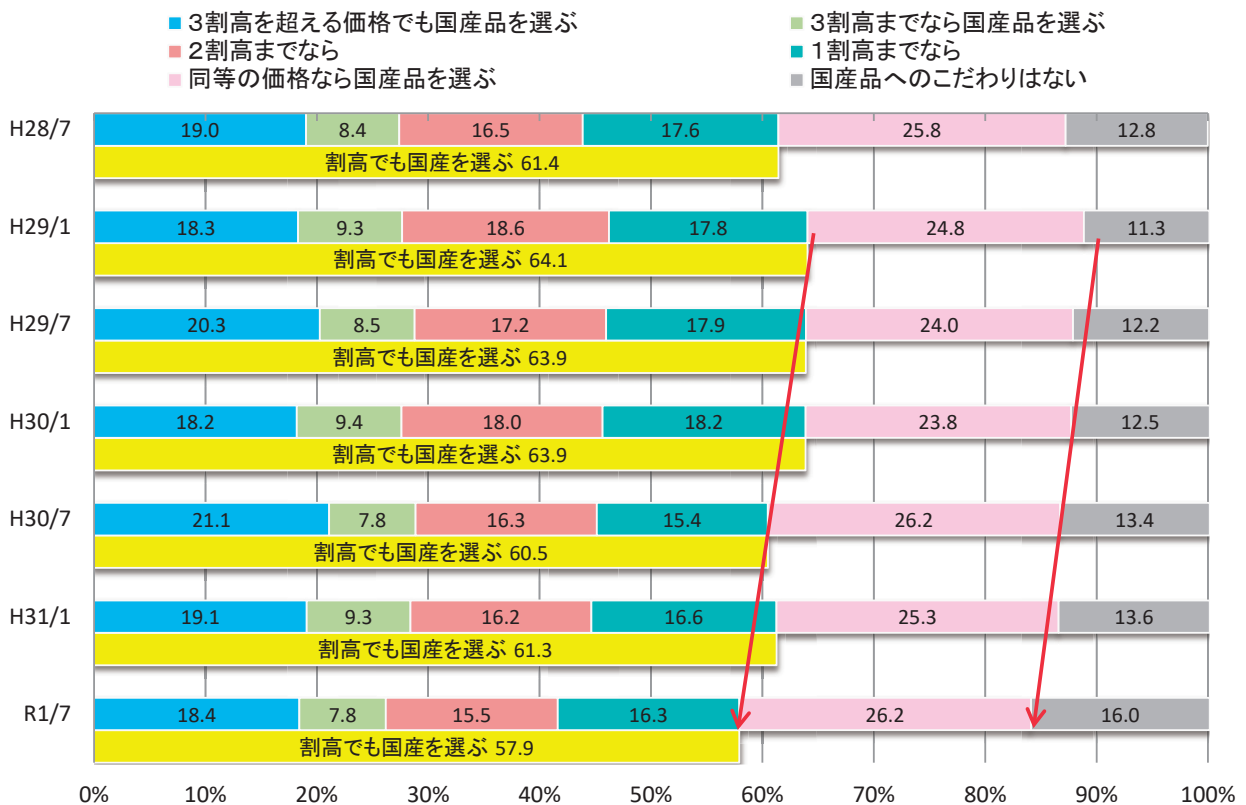


3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

国産品にこだわらない割合、ゆるやかに上昇

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

「割高でも国産品を選ぶ」は、57.9%と過半を維持しているものの、緩やかな低下傾向。一方で「国産品へのこだわりがない」とする割合は16.0%となり、その割合は緩やかな上昇傾向。



4 食生活に関する意識調査(特別設問)

バラエティのある食生活は、60代、70代が実現

図7 日常生活において「食べること」への関心度／食べることに「関心がある」とした理由

食べることに「関心がある」と回答した割合は76.5%であり、前回調査の82.2%から数値は低下したものの、消費者の「食べること」への関心は引き続き高い。「関心がある」理由としては、「おいしいものを食べること」(66.8%)が最多。

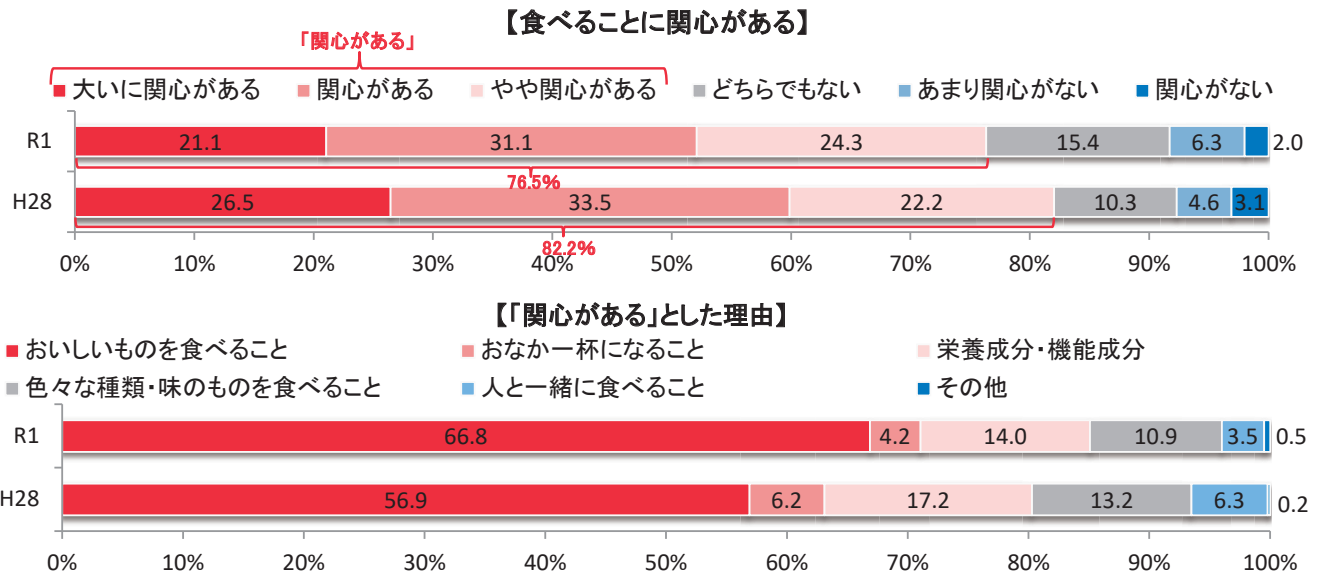
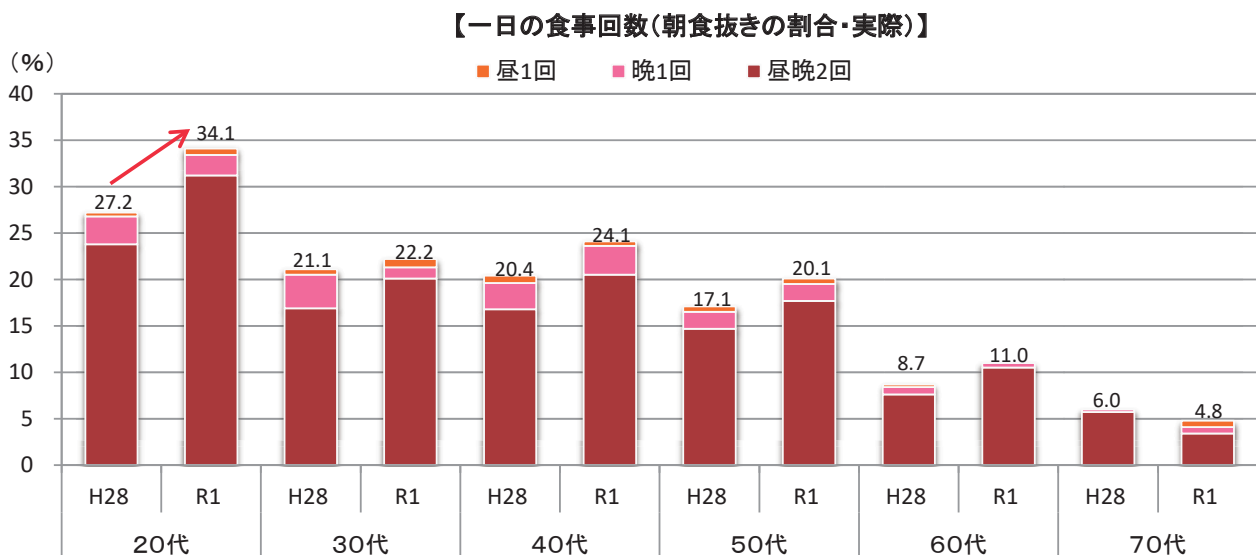
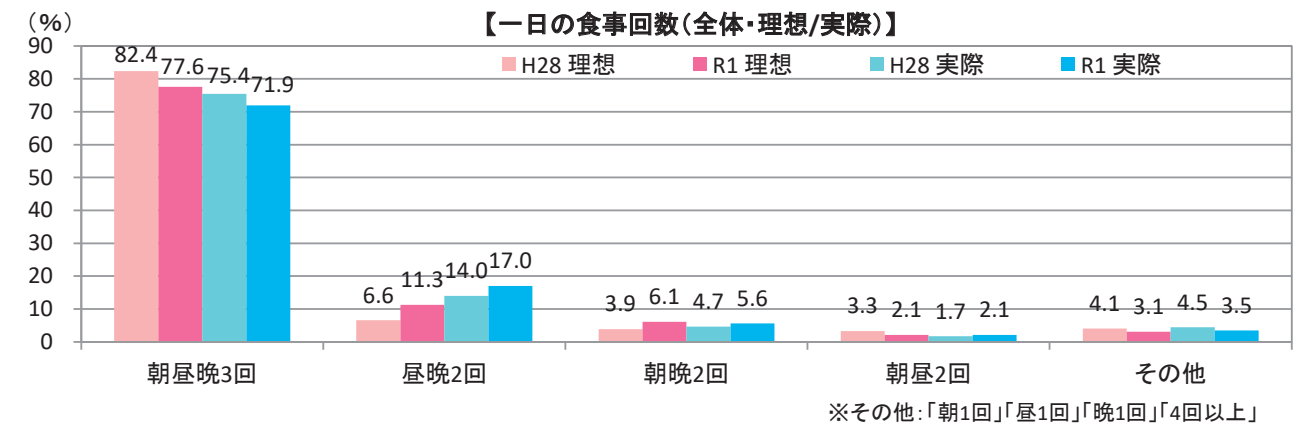


図8 一日の食事回数(理想/実際)

一日の実際の食事回数は「朝昼晩3回」が71.9%で最多だが、H28年の75.4%と比べると減少。「昼晩2回」は17.0%でH28年から増加。年代別に「朝食を食べない」人の割合をみると、20代は34.1%で、前回調査から6.9ポイントと大きく増加。



※一日の食事回数全体から、朝食を食べている「朝昼晩3回」「朝昼2回」「朝晩2回」「朝1回」「4回以上」を除いたグラフ

図9 普段の朝食で摂っているもの(主食／主菜／主食・主菜・副菜以外その他)

普段の朝食について、主食では、「ごはん」が52.9%、「パン」が31.4%で、年代が高くなるほど朝食にパンを食べる割合が高い。また、年代が高くなるほど何らかの「主菜」「主食・主菜・副菜以外のもの」を摂っている割合が多くなっており、高齢世代ほど主食、主菜、汁物などを合わせたバラエティのある食事をしていることが伺える。

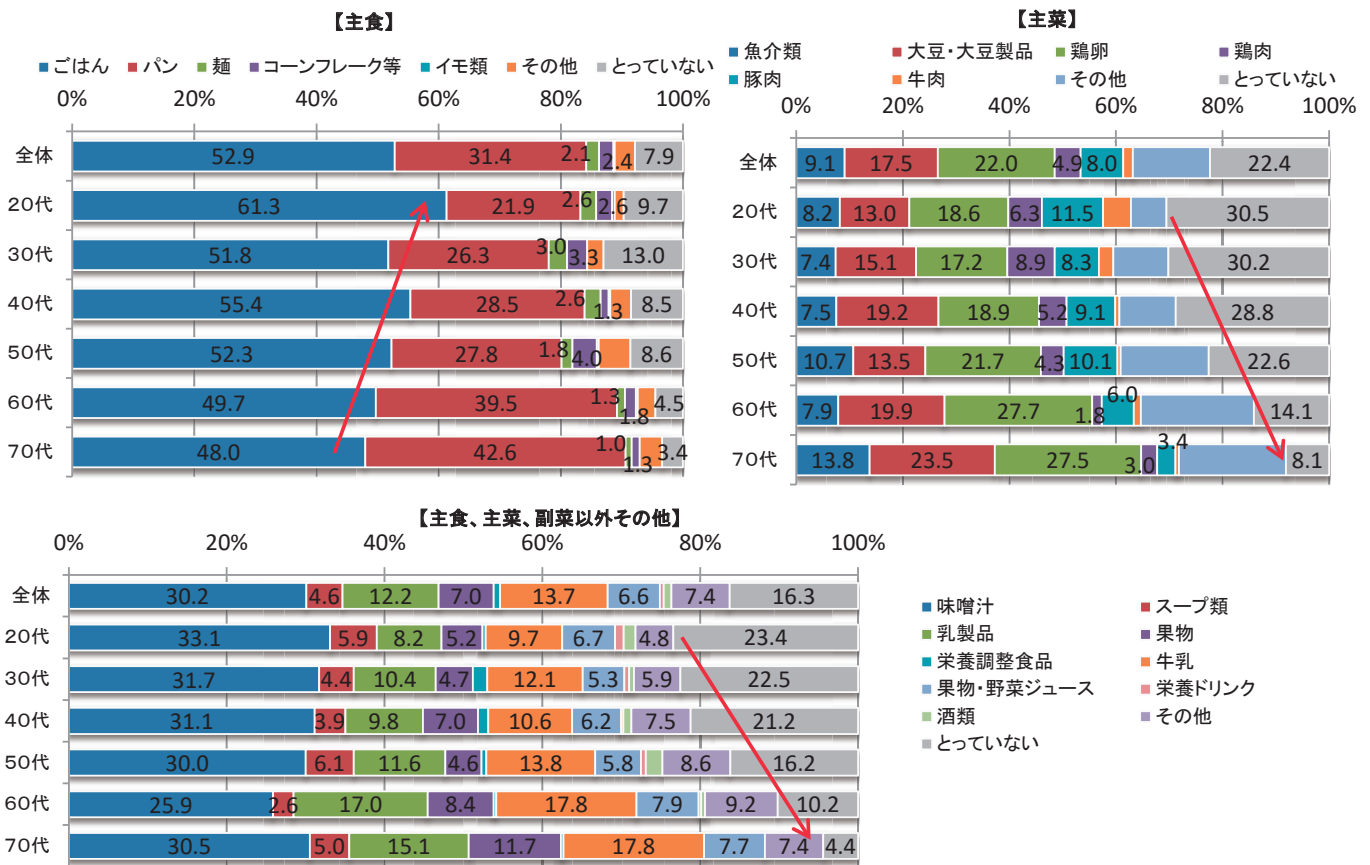


図10 普段の昼食で摂っているもの(主食／主菜／主食・主菜・副菜以外その他)

普段の昼食についても、主食は「ごはん」が最多となり、次いで主食に「麺類」を食べている割合が全体では20.2%。高齢世代では33.2%と約3人に1人が昼食に麺類を食べている結果。

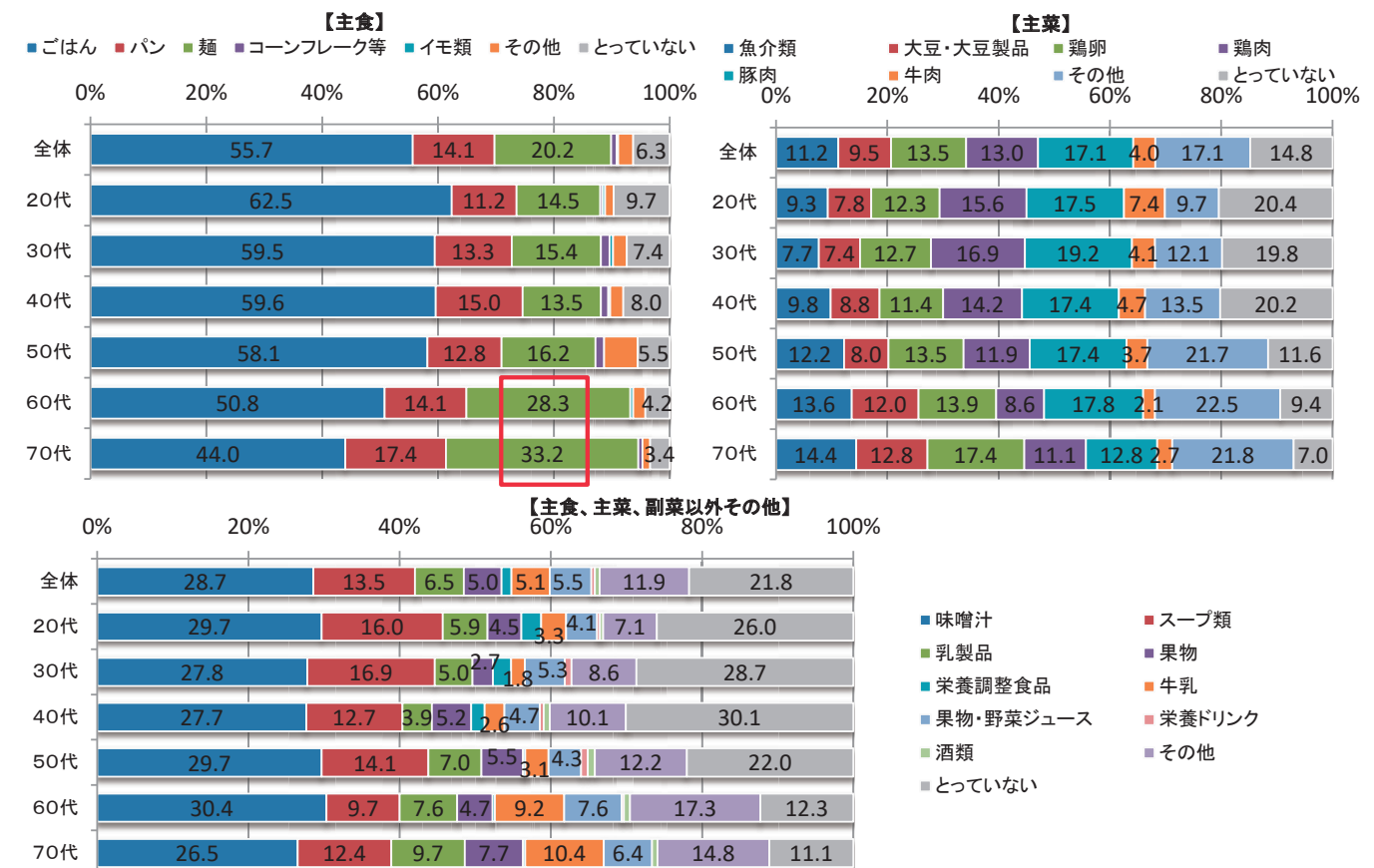


図11 普段の夕食で摂っているもの(主食/主菜/主食・主菜・副菜以外その他)

夕食についても、主食は「ごはん」(81.8%)が最も多くなった。主菜は「豚肉」(30.7%)が最多、次いで「魚介類」(24.4%)。魚介類は年代が上がるほど割合が高くなる傾向にあるのに対し、豚肉は世代間で大きな差はなく、幅広い年代で食されている。

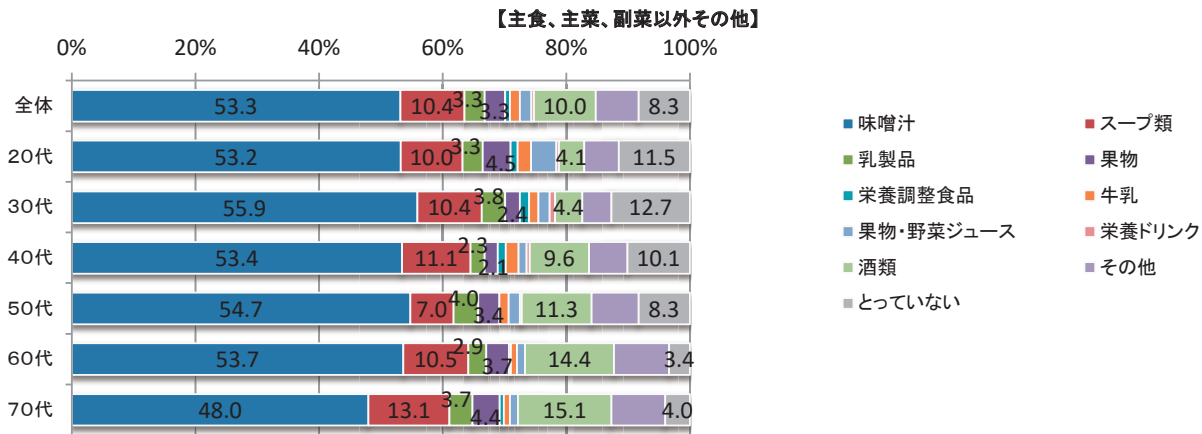
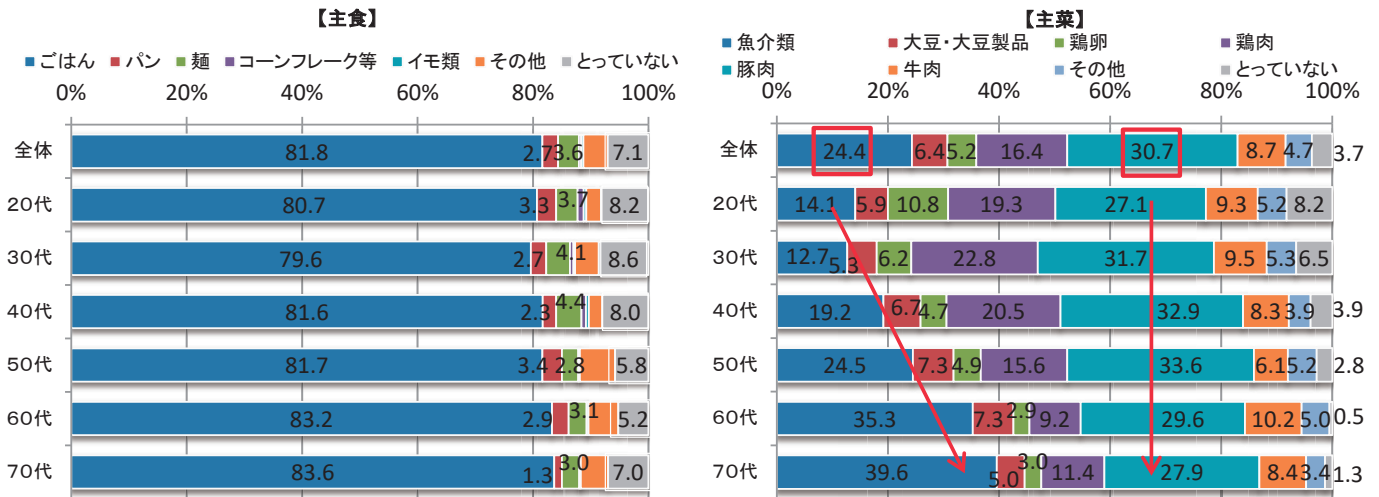


図12 どのくらい手作りのものを食べているか

朝食、昼食は約3割が「一汁二菜程度の手作りの品」を食べていると回答。夕食は64.0%が「一汁二菜程度の手作りの品を食べている」と回答し、「一部手作りのものを食べている」(26.1%)と合わせて、約9割の人が手作りの品を食べている結果。

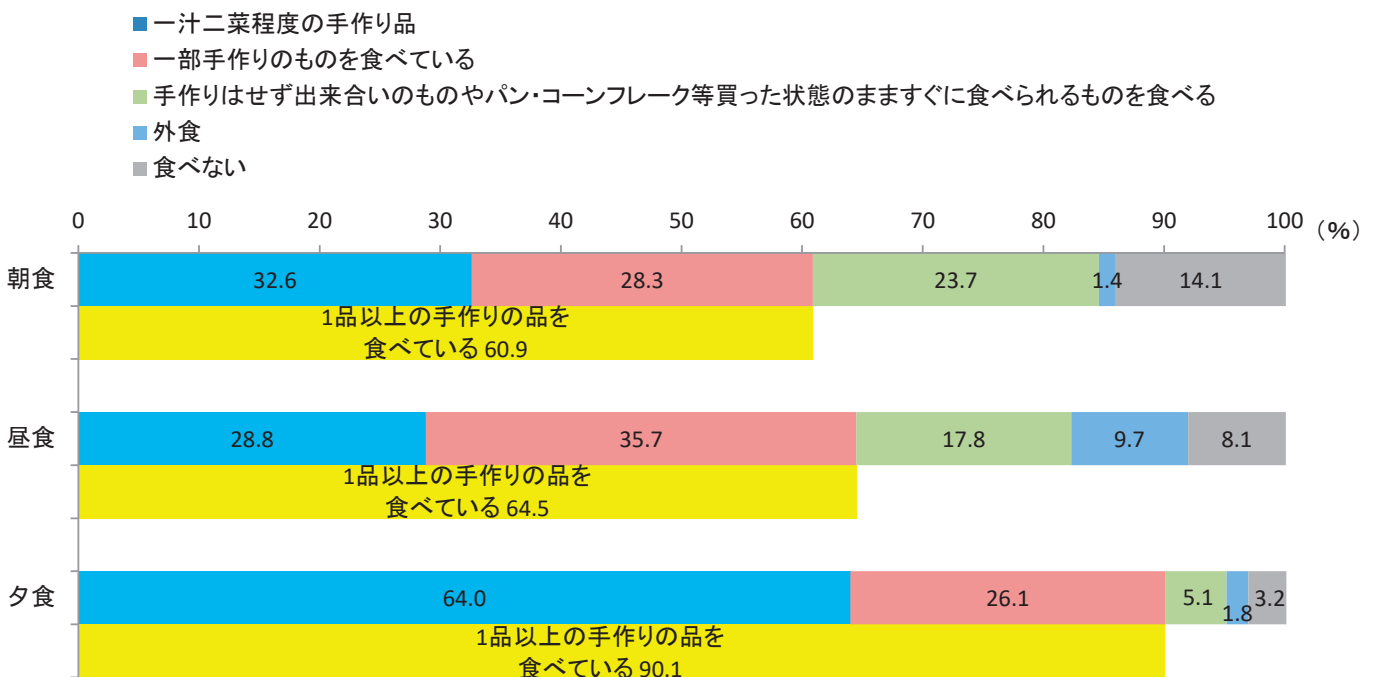


図13 食事の購入場所

食事の購入場所は「スーパー」が最も多く、年代が上がるほど利用。

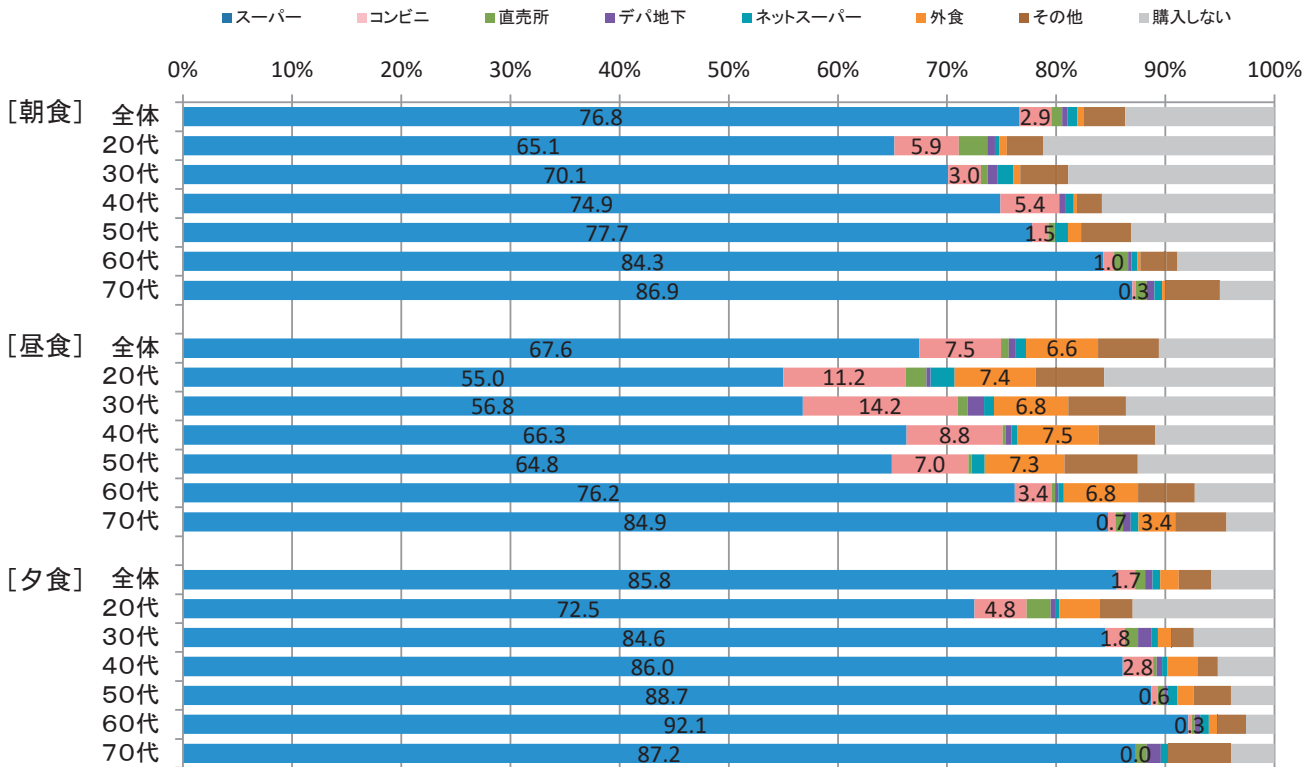


図14 今後の摂取量の変化

今後の摂取量について、全世代とも約半数が野菜、魚介類を「増やしたい」と回答。ごはん、パン、肉類は約7割が「変わらない」とするも、ごはん、パンは約2割の人が「減らしたい」と回答している。

